

ダイコンに 今後発生する害虫

9月の農作業

■ダイコンサルハムシ

- 成虫、幼虫ともにアブラナ科の菜類を好んで食害する。
- 夏の終わりころから秋にかけて多く見られる。
- 卵から成虫になるまで約1か月かかり、成虫は長命で1～2年間生存する。
- 成虫は飛ばず、歩行によって広く移動・分散する。
- 発生が多いと、葉脈だけで残して網目状、レース状に食い荒らす。



ダイコンサルハムシ(幼虫)



ダイコンサルハムシ(成虫)

- 【防除】**
- 寒冷紗などによる被覆で侵入防止をする。寒冷紗の裾は土で覆う。
 - 育苗床やほ場の周縁部から発生することが多いので注意する。

| 適用農薬 | 希釈倍数 | 使用時期 | 総使用回数 |
|-----------------|--------|----------|-------|
| モスピラン顆粒水溶剤(※毒劇) | 2,000倍 | 収穫14日前まで | 1回 |

■キスジノミハムシ

- 食害痕は、葉の成長とともに穴が広がり、ハクサイ、ダイコンなどでは幼苗期の被害で枯死することもある。
- 幼虫は根部表面を食害する。
- 成虫は、黒色の左右の鞘翅中央部に黄色の筋があり、近づくともみのように跳ねる。
- 成虫は、直径約1mmの円形の食害痕がある。



キスジノミハムシ(成虫)



キスジノミハムシ(食害痕)

- 【防除】**
- アブラナ科野菜を連作すると発生しやすくなるので避ける。
 - 成虫は葉の中心部や葉裏に生息していることが多いので注意する。

| 適用農薬 | 希釈倍数 | 使用時期 | 総使用回数 |
|------------|--------|---------|-------|
| スタークル顆粒水溶剤 | 1,000倍 | 収穫7日前まで | 2回以内 |

雑草図鑑

カラスムギ・ブタクサ

9月の農作業

カラスムギ

種子で繁殖する冬生一年草。温暖地では9月から出芽し始め、出芽盛期は10～11月であるが、翌春まで続く。冬期はほとんど出芽しない。種子は暗条件下でも発芽する。出芽深度はきわめて深く、軟らかい土壌であれば約20cmからも出芽できる。そのため、冬期の凍霜害を受けることも少ない。茎は中空、直立・叢生する。高さ60～80cm。葉の長さ10～25cm。幅4～6mm。道ばた、畑地に生える帰化植物。



カラスムギ

防除のポイント

種子は2週間以上の湛水条件で死滅するので、水稲作または下記の湛水で根絶できる。多発ほ場では、種子の成熟前に刈り取る。湛水が不可能なほ場では輪作を行う。



カラスムギ(小花)



カラスムギ(小穂)

ブタクサ

北アメリカ原産の帰化植物で、空き地、道ばたなどに生育しますが、土の柔らかい場所に多く発生する。種子で繁殖する夏生一年草。春にいっせいに発芽し、8、9月ころ開花する。子葉はへら状楕円形で先が丸く、濃緑色でやや厚みがあり、光沢がある。葉の表面と葉柄に毛があり、幼茎にも上向きの毛がある。葉身はヨモギに似るが薄く、裏面にヨモギのような白綿毛はない。花粉は風でよく飛散し、アレルギーを引き起こすので、花粉症の原因として問題になることもある。



ブタクサ(開花期)

防除のポイント

畑地の周辺では、種子を結実させないように、結実前に2～3回刈り払う。刈り取り後の再生はない。花粉症の原因植物でもあるため、防除に努める。出芽後の攪乱に弱いため、中耕、土寄せ、拾い草でほとんど防除できる。



ブタクサ(生育中期)



ブタクサ(葉)

裏面はダイコンに今後発生する害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.341 令和元年9月15日発行